

広 報

# ふじかわ

11月号 昭和57年11月20日発行

No. 256

## 町のメモ

昭和57年11月1日現在

人口	16,946人
増減	- 12人
男	8,381人
女	8,565人
世帯数	4,308世帯
面積	31.09km <sup>2</sup>

富士川町 総務課



町の今年の目標  
「笑顔であいさつ明るい町に」

## 来年4月に開院します

(表紙の言葉2ページに)

# 私たちの町の山間部でも 広域的な道路網を形成

みなさんもご存知のように私たちの富士川町の地形は、松野盆地と富士川地区の一部平坦地を除くと、町の総面積三十一・〇九平方キロの約七五割が山地となっています。そして、この山地には縦横に県道・町道・林道・農道が走っています。例えば、県道富士宮―由比

## 農免農道

この農免農道は、農業の基盤整備はもちろんのこと、低迷し続ける農業経営、特にミカン農家の経営改善や複合化を促進するとともに、地域開発などを目的としています。そして、この道路の正式な名称は「農林漁業用揮発油税財源身替農道」といい、農林業に使用するガソリン税の還元による国・

県の補助を受け、町営土地改良事業で行っているものです。

全体計画では南松野（水ノ口）〜岩淵（サービスエリア前）までとなつていますが、その内、昭和48年度から始められた南松野〜室野間（延長三千五百九十二メートル、幅員六・五メートル）は、事業費約五億五千万円（国庫六割、県費一割、町費一割）で、昭和57年3月に九年の歳月をかけて完成してまい

す。さらに昭和57年度からは残りの室野〜岩淵間（延長一千六百六十五メートル）の工事が事業費約三億円で始められており昭和61年度には全線が開通する予定になっています。（なおこの間は、ほとんどが現道の拡幅となります）



国一や県道の交通渋滞緩和にも一役

これが全線開通しますと、県道富士川―身延線について富士川地区と松野地区を結ぶ二本目の路線となり、前述した農業基盤整備だけにとどまらず、現在、私たちの町が抱えている重大問題の一つである国道一号线富士川橋を中心

線、町道富士川―由比線、農免農道・林道粒良野―八棟線、林道川坂山線、林道吉津―金丸線、林道小塚線（現在工事中）など――。

## 表紙のこぼれ

当町大業窪へ建設中の「国立蒲原総合病院」は、昭和58年4月開院を目指し、各工事とも順調に進み、完成に近い姿が現れてきた。病院本体工事は、外装がほぼ終了、内部も各室の仕上げ段階にあり、空調・衛生・電気各設備機器も設置され、1月には試運転開始とか。

## 林道吉津―金丸線

私たちの町の西側山岳地帯にある森林資源は、そのほとんどが戦後植栽されたもので、現在、間伐の必要な時期にきています。しかし、労働力不足や資金の高騰などの諸問題を抱え、各農家とも正常な育林管理ができていないのが現状です。このため、農家のみなさんに間伐や植林を積極的に進めてもらい、優良な山林を作ってもらおうと――昭和56年3月にこの林道は完成されました。

まず、同林道の歴史から話してみましよう。同林道の開設工事は古く、昭和7年から「岩淵土工森林組合」の手により始められたもので、途中戦争などのために一時工事は休止となりましたが、昭和45年から県の補助を受け工事再開

昭和54〜55の両年度には国・県の補助を得て開通、この間の述べ総事業費は約九千万円となっています。これにより、利便を受ける沿線の山林面積は百八十畝、蓄積石数は一万八千七百四立方メートルになります。

また同林道のコースは、町道上町―室野線の吉津配水タンクを起点とし、同町道から吉津川沿いに分かれ、沢山を経由、川坂山（林道川坂山線と接続）四十九山などの山林地帯をぬうように走り、野田山広場をかすめて最終的に蒲原町の善福寺林道と接続しており、延長は四千九百メートル、幅員三メートルとなっています。

今後の整備計画としては、みなさんもご存知の野田山保健休養林造成事業が五カ年計画で本年からスタートしており、これが完成すると、同林道とこれに途中で接続している林道川坂山線が自然公園への連絡道の役割を果たすことになるため、全面舗装やガードレール・道路標識などの交通安全対策も考えています。

## 林道小塚線

この林道は、林道吉津―金丸線が完成した翌年度（昭和56年度）から三カ年計画でスタートしたものです。全体計画では、南松野小塚（町道富士川―由比線の市川牧

昭和57年度 延長六百四十メートル、事業費二千三百万円  
昭和58年度 延長七百三十七メートル、事業費二千三百万円  
昭和59年度 延長七百三十七メートル、事業費二千三百万円

同沿線地域の森林資源のほとんどが戦後植栽されたもので、その内、約八十五割の林分が間伐を必要としている――というのが現状です。

また、昭和58年度に林道吉津―金丸線に接続すると、松野地区から蒲原町まで、山間部でも広域的な道路網を形成することになり、林道の使命が充分達成されると思えます。



野田山広場を経由して蒲原町へ



林道吉津―金丸線への接続は来年度

## 私の思い出

### 野田山「すずり石」

野田山の林道吉津―金丸線と林道小塚線とが接続する地点のわきに、昔から「すずり石」と呼ばれている大きな石があります。今は植林された杉や松の木立にかくれ、その存在すら知らない人も多いようですが、お年寄りのみなさんには、これにまつわる思い出がたくさんあるようです。

そこで、この「すずり石」にまつわる思い出を望月正作さん（川坂）にうかがってみました。



望月正作さん (77)

「すずり石」という名は、昔武田信玄が蒲原城を裏手攻めした時、これに反対する衆がここで墨をすって異変を矢文で蒲原城に知らせようとしたが、届かなかった――という話を聞いたことがあるから、そこからついたと思うなあ。昔は野田一面が雑木林で、よく秋になると弁当を持って柴栗を拾いにいき、足でイガをふんずばして採ったもんだよ。そしてお昼になると、湧水を飲んで、みんなで弁当を食べ、この石に登って遊んだ。これが、わしらの子どもころの楽しみだったよ。

野田一面が植林されたのは弘法さん（野田山実相院）がきてからだが、青年林が一番早かった



森閑とした松林におおわれて

今月のテーマ

広報ディスプレイ  
変りゆく富士川  
私の思い出の中から

遊びをとおして

子どもの育ての親

本通り四 桐谷定雄さん(74)  
河砂利を採られ、流木の放置された富士川を見ると、まことにあわれに思う。昔は水も豊かで、魚も住み、きれいな砂や石ころで遊んだものだった。子どもと富士川は切り離せない関係にあり、子ども



提言者 太田英雄さん

私は、数えて八〇歳。富士川の思い出の中で、第一には本流が岩淵側に流れるようになったことがある。昔から本流は、水神さんの岩にぶつかり、富士側を流れ変ることがなかったが、8月2日と9月12日の台風による増水で、坂下の堤防の根を決壊寸前の状態にまで変えてしまった。昔は工事をするたびに水を平らに流すことに務

もの育ての親だった。また水溜りがあつちこつちにあつて、そこは魚の巣でもあつた。手づかみで、はや・かあじい・なまずなどを取ったり、にがしたり、大声ではしゃぎまわつたものだ。夜は、みみずを糸に通して富士川の岸で流れの中にいれると、大きなうなぎがいたり、時にはかにかかつたり、その感触は今でも忘れない。

もう一つの思い出は、昔は本流が当町寄り流れれていたもので、国鉄鉄橋下の一番岩五番岩に登り、急流に飛び込み抜手を切つて向岸に渡り、熱い砂に身を埋めて話し合つたり、特に一番岩からの飛び込みを誇りにしたものだ。国鉄鉄橋が開通してから七十一年目に過日の流失となつたことを思うと、今一番心配に思うことは、

めたものだが、最近の工事はどうも一カ所を深くするように思われる。そのために大被害になるのではないだろうか。それにつけ思い出すのは、舟山町・坂下で避難の仕度をした9月12日の出水時、堤防の松を切り粗朶(そだ)のかわりにしたことだ。この松は、明治初年に堤防を造つた内務省土木局の吉村さんが植えて万一の時に備えたものである。大正年間に中学の裏側が危険になつて一度切つて入れたことがある。その所には突堤を造つてあるが、今回はそれ以来のことである。吉村さんの奥さ

んのお墓が光栄寺にあるから、一度みなさんもお参りしてもよいと思う。私ら子どものころは、富士川で一日中魚取りや石合戦などして遊んだものだ。水神寄りの所に木の仮橋が架つていて、大水のたびに流され、渡舟で川越えをすることも多かった。橋代は人が二銭、荷車が五銭、自動車が五円くらいだった。

移くらしいの若アユが銀鱗をきらめかせて少年の釣糸にもよくかかつたものだ。あれから幾星霜、今の富士川は魚影も薄くなり、アユの姿など見るすべもない。自然から次第に遠去かり、変りゆく姿をみせている。地上の生活も変り、舟の横越しが、美しい「蓬来橋」となり、走り去るマイカー族の群、テレビ、コンピューターゲーム、ロボット……。あのころの夢が今現実となりつつある。だが人の心の空しさ。人の心だけは逆流して昔に返つてもよいのではないか。動き始めた車の騒音で、ふと吾にかえつた。

大人がついていなければならぬ。始末である。自然の中で遊んでこそ、危険なことも、川の流れや水のこわさも覚えると思うのだが。私のもう一つの思い出は、二〇代のころ、富士川の石を背中にしょつては、ミカン畑の石垣を一生懸命作つたことだ。だから、その石垣を見るたびに、昔の富士川を思い出します。

国道鉄橋が竣工して六十年、老朽化していつ災害が起きるか、起きてからでは遅いということだ。一日も早い架替えを痛感するものである。

兄の水浴びと

「セギ」の思い出

日の出町 若月秀雄さん(67)

子どものころ新町に住んでいた私は、今は亡き兄とよく富士川へ水浴びにいった。そのころの川は中央に本流、当町側に支流と、二本の流れがあつた。また、かんがい用水のための岩淵水門と蒲原水門があり、大水が出ると水門を閉めた。水が干くと河原木を拾う人や魚を取る人でにぎやかだった。取水用水が少ないと本流から「セギ」といって、丸太で組み、すのこでむしろを張る「川倉」というものを幾つも造つて並べた。しかし大水が出ると、この「セギ」も流されてしまった。当時の苦労は大変なものだったと思う。日本三大急流の一つである富士川は、昔から「あばれ川」とも呼ばれている。普段おとなしい川も、先の一〇号台風の国鉄富士川橋流失でそれを実証した。また、国一鉄橋も通行止めのおさわぎとなつた。この橋は大正12年、私が八歳の時開通した。早くも六十年になる。当時としては、何とどでかい橋」と感

12月のテーマ

わが家の重大ニュース

わが家のこの一年間を振り返ってみると、最大の出来事は、末娘の進学のことでした。1月ごろまでに最終的な希望校を決定し2月に受験、無事合格して4月に入学式を迎えられました。子どもを進学させるのは初めてのことでないけれど、女の子ではあるし、汽車通学で遠い学校へやることには一抹の不安がありました。しかし、新しい高校の制服に身を包み、少し緊張して通学する娘の毎日を見てみると、それは親の取越苦労だと思えるようになりました。

高校一年の娘と大学二年の息子を抱え、わが家の教育費は倍増しました。親としてこれらが正念場であると、主人ともども覚悟を決めたのも今年の出来事の一つでした。ともあれ、重大ニュースが病気や事故ではなく「娘の進学」であるということは、わが家の一年が平穩無事に過ぎた証拠で家族全員が健康で学業や仕事に励むことができたのが平凡ではあるが、実は重大ニュースの一つかもしれません。私も熟年といわれる年になりつつある現在「息子の結婚」がわが家の重大ニュースになるのは、いつの日のことでしょうか。

南町一 望月 洋子さん



12月のテーマ

わが家の重大ニュース

◎字 数

四百字づめ原稿用紙に一枚以内。

◎締切り日

12月6日(火)まで

◎投稿先・問合せ先

富士川町役場・総務課

◎注意事項

匿名者の原稿は掲載いたしませんからご了承ください。

嘆したものが、現在の交通量を考えると、また国鉄の二の舞を踏まないうちに早急に何とかして欲しいものだ。

舟戸渡舟が

唯一の交通機関

清水町 戸次誠司さん(65)

今朝の富士山は一段と美しい。雪の薄化粧へ曙光が映えて、よく晴れた霜月の空に神々しいほどに浮び上っている。いつもの習慣で床を離れると、先づ富士を見る。無念無想の瞬間が消えて、ふと少年期を思い出した。あのころの富士、今見る富士、少しも変っていない。天空の無変に比べ、地上の変化の著しさ。

昭和の初期、テレビもラジオも無かつたころ、年に二回の大宮の浅間神社のお祭りに、老いも若きも出かけたものだ。「オーイ」と呼びかけると、かたわらのわら小屋の中から、ほおかぶりの船頭さんが、やおら立ち上がり、定員五、六人ほどと思われる横越しの舟をあやつる。急流を流されないよう上流から張つた鉄線が船先に結ばれ、さおの一押しごとに両岸にピンと張つた命綱ともいうがごとき架線上を「カラカラ」と音をたてて滑車が走る。当時は、これが富士川を渡る唯一の交通機関であつた。陽春4月ともなると、三、四

移くらしいの若アユが銀鱗をきらめかせて少年の釣糸にもよくかかつたものだ。あれから幾星霜、今の富士川は魚影も薄くなり、アユの姿など見るすべもない。自然から次第に遠去かり、変りゆく姿をみせている。地上の生活も変り、舟の横越しが、美しい「蓬来橋」となり、走り去るマイカー族の群、テレビ、コンピューターゲーム、ロボット……。あのころの夢が今現実となりつつある。だが人の心の空しさ。人の心だけは逆流して昔に返つてもよいのではないか。動き始めた車の騒音で、ふと吾にかえつた。

自然の中で遊んでこそ

川の流れやこわさも

小山 植松忠雄さん(70)

私の子どものころは、遊び場といたら「富士川」と、すぐ言葉に出るくらいなつかしい思い出の場所である。今のように公園やプールがあるわけではなし、一日中河原へ行つては水遊び、魚取りをしたものだ。昔は何をするにも親などほとんどついていなく、自分たちだけで遊びを覚え、道具を作り、自然に大ぜいの子どもが集つた。しかし今では、孫の遊びを見ていると、マンガ本、テレビ、ゲームなど、自然の遊びから遠のいている。富士川で魚を釣るにも

大人がついていなければならぬ。始末である。自然の中で遊んでこそ、危険なことも、川の流れや水のこわさも覚えると思うのだが。私のもう一つの思い出は、二〇代のころ、富士川の石を背中にしょつては、ミカン畑の石垣を一生懸命作つたことだ。だから、その石垣を見るたびに、昔の富士川を思い出します。

大正7年10月

歩兵連隊の遭難

南町一 鈴木富治さん(81)

大正7年10月、歩兵連隊が行進中の、釜ヶ淵の針金橋が切れて大ぜいの兵隊が富士川に流されたことがある。半鐘が鳴って、青年団や消防、村の衆が総出で救助にかけつけた。私もいつてみると、兵隊が一人中洲に上つて居るのがわかつた。私ら五、六人の若い衆が川に飛び込んで助けに向つたが、流れが早く、水も冷たくて、中洲まで泳ぎついたのは亡くなった錦織弁一君と私の二人だけだった。兵隊はすでに死亡していたので、星山の渡舟をたのんで遺体を収容した。川原には遭難した人の所持品が散乱していたので、それも拾い集めたりした。富士川に流された兵隊は百人からいたが、重装備であつたため泳ぐのも大変なことで、その時に七人の溺死者が出た。

移りゆく

片羽の町屋並

舟山町 天野 寛さん(73)

今はその場所に供養塔が建立されている。富士川で溺死する人は年に二、三人はいたが、歩兵連隊が遭難するなどは未曾有のことで、特によく憶えている。その後、浜松の連隊長から感謝状が届けた。

増しました。親としてこれらが正念場であると、主人ともども覚悟を決めたのも今年の出来事の一つでした。ともあれ、重大ニュースが病気や事故ではなく「娘の進学」であるということは、わが家の一年が平穩無事に過ぎた証拠で家族全員が健康で学業や仕事に励むことができたのが平凡ではあるが、実は重大ニュースの一つかもしれません。私も熟年といわれる年になりつつある現在「息子の結婚」がわが家の重大ニュースになるのは、いつの日のことでしょうか。

# ママさん記者が取材中

## ～富士川町婦人会～

11月2日、恒例の町民文化祭の準備で賑やかな婦人会館を訪問し、佐野節子・若月幸江の両副会長からお話をうかがいました。

婦人会の沿革は、終戦後の昭和21年にまず松野村婦人会、ついで昭和23年に富士川町婦人会が設立されました。その後、昭和32年の町村合併により両婦人会も統一され、今日の「富士川町婦人会」に至っています。

現在、同会は会員約二千人を有し、本部組織は会長・副会長・会計・庶務・厚生部・生活部・文化部・文化部長・婦人百科・衣しよう係などで構成されています。

つぎに、各部の年間事業計画の主なものを拾ってみると――

**生活部** 消費生活問題や栄養教室による食生活の改善など、生活に密着した問題と取り組んでいます。

**厚生部** 日赤の三大講習会を始め結核予防婦人会としてのボランティア活動など、健康や福祉に関係のある問題に取り組んでいます。

**社会部** 交通安全対策や税金の問題、町議会傍聴などを通じて社会参加の学習を進めています。

**文化部** 講師を招いて講習会を開催したり、史跡探訪や婦人会館祭りをを行い、主として文化面の啓蒙に力を入れています。

**婦人百科** 書道・茶道・編物・鎌倉彫り・舞踊などの講座を持ち、会員の中から希望者を募り運営しています。それに芸文講座も会員を対象とし、年五回の計画で開催しています。

――ここに紹介したのは、婦人会活動のごく一部であり、年間事業計画に盛り込まれている行事や学習は各役員や会員の協力と着実に実行されているそうです。

また申し合せ事項としては「学び合う場をもち、主婦として、妻として、母として、社会人として、今を生きる婦人の役割を果たしましょう」を掲げ、その活動を充実させるためにさまざまな努力をしています。しかし一方では、婦人会離れの現象も見受けられます。特に若い婦人層からの支持が得られず、どうしたら理解され、積極的に参加してもらえらるだろうと、それが最大の悩みだそうです。少しでも底辺の拡大をはかり、組織の中に若い息吹きを願っているようです。

さらに、婦人会活動の根底にあるものは、地域のコミュニケーションをはかることにあります。学習やボランティア活動に積極的に参加していただくことを求めています。参加すれば必ずみなさんに得るものがあるはずで、活動に参加すれば他地区の人たちと顔見知りになり人の輪が広がります。横のつながりができることは、みなさんの生活を豊かにすることでもあります。ぜひ婦人会活動を理解し、すすんで会員になっていただきたい。そのためには、私たちが精一杯の努力をしていきたいと思えます――と、佐野・若月の両副会長は熱意をこめて話してくださいました。一つの組織を支えていくことは、実に大変なことだと感じました。



左から若月、佐野両副会長と久保田、望月広報モニター

南町二 望月 洋子

## 社会教育からの提言

### 外国人から見た日本の家庭教育

先日、ある会合で静岡聖光学院校長のピエール・ロバート氏の講話を聴く機会を得た。その中で同氏は、日本の家庭教育のあやまちを事例を上げて指摘された。それらのいくつかを拾い上げてみる。

例一〇〇氏は息子に自分の愛車をきずつけられ、それについて夕食時に小言を言った。母親も同席して聞いていたが、話が一段落した時に、息子に「さあ勉強するんでしょ」と促すように言った。すると息子は、母に向って「このくそばあ」と捨てぜりふを吐いたと言う。

同氏はその時、息子に対し何も忠告しなかった父親の態度を批判しているのである。つまり愛車(物)にきずをつけられたことについてはこの外くどく小言を言い、自分の妻(最愛の人)が息子の暴言できずつけられても何もとがめようとならないことに間違いがある――と。

これに類似した例は、私たちの日常生活の中でいくつも見受けられることであり、根本的に大きな反省点ではなからうか。

例二 同氏は、母親にお使いを

頼まれた娘が、さしたる理由もなく断つたり、子どもが苦難から逃避し安易な道を選ぶようになった場合に直面した時、日本人の親は明確な助言を子どもに与えず、あいまいにしてしまうことが多いと断言した。

これは、親自身の価値観があまりである証拠であり、わが子に對し、人生のどんな種をまくかの選別が漠然としているというのである。このことは、自分の家の客に接する時や、客として他人の家を訪れた時に、よそ行きの言葉ばかりや身なりをし、細かな神経や心使いをみせるが、日ごろ自分の家ではゼロに近い状態が通例であることにも通じ、いつたい本物の自分がどこにあるのかわからないというのである。

これらの話の内容は、同氏の講話のほんの一部分にすぎないが、どれも素直にうなずける中味である。少なくとも、私たち親といえる者にとって、子どもは「宝物」であり、将来に期待する心情が大きい。その子どもに、人生の専門家として、明確な考えを持たせられる存在になりたいと思うのである。

## 第28回目を迎えた

### 町民文化祭

小春日和の11月2・3日、第二十八回目の「町民文化祭」が町立図書館や体育館を主会場にして行われました。

祝日である3日は、早朝から体育館前広場で茶席や一里塚母親クラブの操り人形劇の他、おでん・お団子の店、焼鳥・生ビールの店が開店、そのかたわらでは金魚すくいやもちつきも行われ、黒山の人でにぎわっていました。また、昨年より作品が増え一層充実した展示会は図書館で、囲碁大会は旭町公会堂で、記念式典や芸能大会、将棋大会は体育館で各々行われ、町をあげての文化の祭りは終日盛況でした。

一方「文化の日」の3日、水口大禮氏(上町)は、多年にわたり民生児童委員および保護司として恵まれない家庭の保護指導や児童



の健全育成に献身するとともに、罪を犯した者の更生、犯罪の予防など、社会福祉の向上に貢献した功績が認められ、静岡県庁で県知事表彰(社会福祉功労)を受けられました。

なお、最後になりましたが「町民文化祭」の記念式典で、町から表彰を受けたみなさんは次のとおりです。

- ◎自治功労 (敬称略) 花田 宗司 舟山町
- ◎教育文化功労 望月 富子 八幡町
- ◎治安維持功労 望月 敏雄 幸町
- ◎交通安全功労 望月 初男 旭町

◎多額寄付者 柳下 寿男 相生町 秀村 敏朗 儘下町 清水 俊信 富士見町

**第二小学校が 文部大臣表彰を**

文部省の昭和57年度学校給食優良学校に、静岡県から富士川第二小学校と磐田西小学校が選ばれ、10月14日、石川県金沢市で開かれた第三十三回全国学校給食研究協議大会で、文部大臣表彰を受けました。富士川二小は昭和54年度、体力づくり」の文部省指定を受けて以来、この研究を体力づくりのみにとらえず、学級づくりを基礎としての人間形成であるという広い視野に立って受けとめ、学校給食のネライを教育課程に位置づける一方、食生活の改善などの成果が認められ、今回の表彰となったわけです。ちなみに、全国では八十二校が受賞しています。



## 資料・東海地震

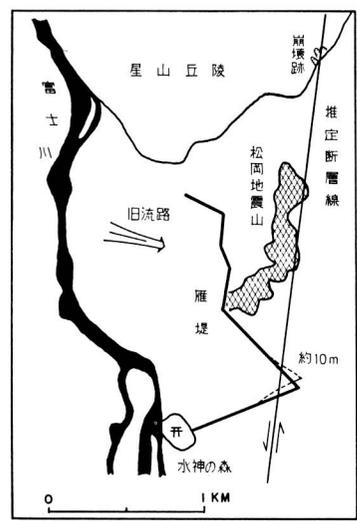
### 松岡にも「地震山」があった

東大地震研 恒石 幸正

前回、世界でもまれな蒲原の地震山を紹介しましたが、同じ安政東海地震のときに松岡にも地震山ができました。このことは富士市に保存されている「岩松村沿革誌」の中に書かれています。

△土地ノ隆起ハ本村松岡ニ於テ里俗地震山ト称スル場所、南北凡ソ五百間、東西凡ソ六十間余、高サ凡ソ一丈式尺隆起シ、地震山ノ名称此時ニ初マルト云ウ。同所ハ歴然トシテ今ニ存セリ

南北九百、東西百の範囲の土地が、地震によって約四尺隆起したのです。「岩松村沿革誌」の書かれた明治26年のころには、土地の人たちは松岡の地



松岡地震山と雁堤の断層変形

その気になって現地を歩いてみると、確かに土地の高まりを感じることが出来ます。

# 戸籍の窓

57・10・15 10・31届出 (敬称略)

## おめでた

区名	氏名	保護者	続柄	堺町	久保田雅俊	雅紀	長男				
木島	芦川	麻里	良治	三女	幸	町	渡邊	麻美	健児	長女	
相生町	丸山	幸恵	守	長女	東町	植松	千裕	信行	長女		
若月	佑起	正	長男	南町	篠原	正成	薫	三男			
上町	望月	正太	千春	二男	南町	二	手島	俊輔	大輔	長男	
坂下	齋藤	隆太	正弘	三男	八幡町	森	まり絵	佑司	長女		
大泉	善裕	善一	三男	木伏	秀典	憲司	二男	備下町	朝比奈	金作	七七

## 一里塚



私には二人の子どもがいる。上が女で下が男である。以前は、姓名判断なんて迷信だと思っていた私も、いざ子どもの名前をつける段になると深刻になってしまい、長女は女らしく育つように、長男は私より大きな人間になって欲しいと願って名前をつけた。無事に育つように、病気をしないようにと願う気持ちは、だれでも同じだと思ふ。

長女が生まれた時、この子の名前をと二冊の姓名判断の本を求め

富士松野	望月	哲矢	章	長男
大棚	克哉	昭	長男	

## おかあさんの知恵袋

暖房器具が部屋の主役を演ずる季節になりました。今月は電気コタツ、電気毛布、電気アンカについて調べてみました。

**電気コタツ**

◎コタツマットを、使っていますか。一日八時間使った場合は一カ月二百二十八円の得。

◎布団の下に毛布をかけていますか。一日八時間使って、一カ月九十一・二円の得。

◎温度調節を小まめにしますか。強と弱では百ワットの差です。一日八時間使って強は弱に比べ一カ月三百十九円の損。

◎コタツを使わない時は必ずスイッチを切りましょう。一日一時間無駄をして一カ月百二十二円の損。

**電気毛布**

◎むやみに強にしていませんか。中でいいのに強にして九時間使用すると、一カ月百五十三・九円損。

◎スイッチは三十分前に入れていきますか。一日一時間短かくすると、一カ月三十四・二円の得。

**電気アンカ**

◎起きる時消し忘れないよう、一日三時間無駄をすると、月百二・六円損。

## 俳句会



宮町 増井 冬木  
朝鴉や今日農仕事身に余る  
鴉の声借りて天から叫びだし

大北町 天野 たま  
地藏盆小銭袋をポケットに  
丹波栗拾ふうれしき掌に余す

南町 法月 幸子  
いわし雲牧から牧へ乗馬道  
深秋や亡き師大きくなるばかり

南町 影島 智子  
はみだされゆく農なるや冬の鴉  
一つ手に欵だこペンだこしぐれけり

南町 木伏 八子  
孫の重み膝ではかるや十三夜  
旭町 笠井みち子  
満月や花なき庭のひろさかな

清水町 宇佐美裕子  
眠る山守のごとくに蒿の輪

南町 宇佐美幸子  
コスモスはみなこちら向き子が育つ

南町 田辺つぎ子  
住み古りし村いっばいの鱒雲

南町 上野みつ子  
足曲げて動く氣配の案山子かな

南町 上野 君江  
月あかりたよりて急ぐ女人講

本通り 古木喜久恵  
学ぶ子に編むセーターの太き白

南町 望月 洋子  
葛の花引きて匂ひを乱しけり